学　年	教科等	題材名	日　時
第５学年	音楽科	“みやソン”でＰＲし隊	令和６年２月９日(金)

１　本時の目標

自分でつくった“みやソン”に合う歌い方について、思いや意図をもつことができる。

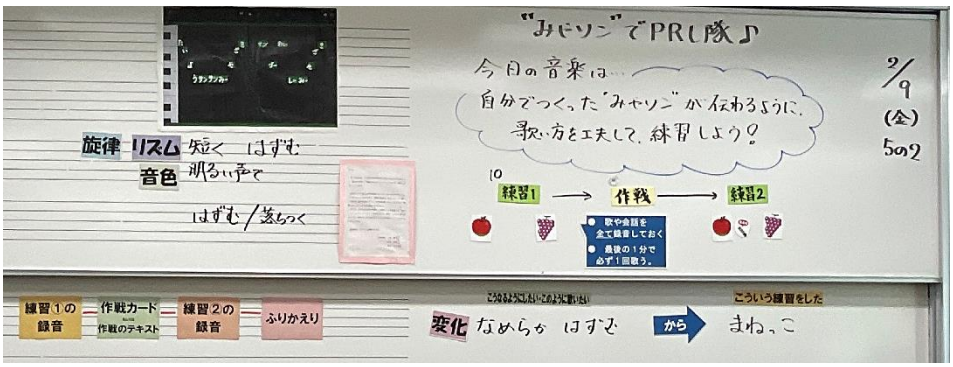
２　指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1　６年生からの依頼を共有し、“みやソン”の歌い方について思いや意図をもつ。 ○　“みやソン”の歌い方 〈“みやソン”の例〉 ○　本時のめあて 自分のつくった“みやソン”が伝わるような歌い方を考えて練習しよう。	○　「総合的な学習の時間の発表で使用できる音楽が欲しい。」という６年生からの依頼を伝えることで、「ＢＧＭとして使える表現に高める必要がある。」という目的意識をもつことができるようにする。 ○　音源として、聴こえやすい音量で提供するために、ペアで録音を行うという条件を設定し、提示することで、相手に自分の“みやソン”を教えなければならないことに気付くことができるようにする。 ○　教師の例示する旋律を、異なる歌い方で試しに歌わせることで、自分の“みやソン”は、どのように歌ってほしいかを考え、本時のめあてを立てることができるようにする。
2　本時の学習の流れについて確認する。 ○　本時の学習の流れ ・　練習①→作戦タイム→練習②	○　本時の学習の流れを黒板に提示し、練習①、②、作戦タイムのそれぞれでするべきことを子どもと話し合いながら確認することで、全員が見通しをもって学習をすることができるようにする。
3　ペアで互いの“みやソン”を教え合い、練習をする。（★） ○　主に“みやソン”の旋律の音取りや歌い方の確認と練習【練習①】 ○　練習②に向けた練習計画【作戦タイム（個人）】 ・「録音を聴くと、声が暗く聴こえるな。明るくするために、どのような練習をしようかな。」 〈学習プリントの視点（例）〉 ・　音の高さやリズムは合っているか。 ・　自分の思いや意図に合っていないと思ったところ。 ・　なぜ「思いや意図に合っていない」と思ったのか。 等 ○　自分の思いや意図を基に表現をするための練習【練習②】 ・「太陽の明るさを声でも表したいな。もっと明るい声で弾む感じで歌えるように練習しようよ。」 ・「口を大きく開けて歌う練習をして、明るい声が出せるようになろう。」	○　音取りで使える楽器を子どもが使いやすい場所に置かせたり、これまでの練習方法等を掲示したりしておくことで、練習をする際のヒントにすることができるようにする。 ○　作戦タイムでは、学習プリントか自由記述のテキストのどちらかを選ばせることで、どの子どもも、仲間との表現を客観的に捉え、その捉えた状態を基に、練習計画を立てることができるようにする。 ○　作戦タイムでは、練習②に向けた思いや意図を複数書き出し、それも踏まえながら練習②を進めさせることで、練習②で思いや意図を連鎖させながら練習することができるようにする。 ○　練習①、②の様子をペアの相手のタブレット型端末で録音させておくことで、表現を何度も聴いたり思いや意図の内容をふりかえったりして練習の効果を検証することができるようにする。
4　本時の学習についてふりかえる。（★） ○　本時の思いや意図の連鎖の様子 ○　次時の練習に向けての思いや意図 ・　次時の活動：近隣ペアとのリハーサル→最後の練習→６年生に提供する“みやソン”集づくり	○　どのような思いや意図をもち、どのように練習をしたのかをふりかえらせ、表現の変容につながったものを取り上げて価値付けることで、次時以降の練習にも生かすことができるようにする。 ○　次時の活動を伝え、次時の練習で取り組みたいことを考えさせて授業を終えることで、本時の学びを基に、次時に思いや意図を連鎖することができるようにする。

3　本時の評価規準

自分でつくった“みやソン”に合う歌い方について、思いや意図をもち、練習をとおしてペアの相手に伝えている。（思考・判断・表現）【記述・録音分析・行動観察】

4　板書と当日の子どもの様子



5　指導講評

宮崎県教育庁　義務教育課　石川　優子　主幹

- 教師が授業で採り上げた子ども以外にも、自分たちの思いを語りながら活動している子どもたちの様子は見ることができた。
- 子どものなかでゴールが明確になっていると、それが原動力になり、目的意識をもち、思いや意図を連鎖させることにつながる。今回は、「６年生の総合的な学習の時間で、それに合った音楽が必要である」という設定をして、「何のためにこの活動をするのか」という目的を明確化したことで、「６年生のためになんとか“みやソン”を完成させよう」という思いを高めることができていた。
- 「何を学ばせるか」というところ（学ばせたい音楽を形づくっている要素）を、絞って授業を構成する必要がある。教師側が欲張りすぎず、子どもが学習後に「今日はこういうことが分かった、できた。」とシンプルに語れる授業にすることが大切である。

6　考察

○　思いや意図を次々に連鎖させ、有意義な活動をしている子どもがいた一方で、なかなか作戦の時間に思いや意図が生まれない子どももいた。作戦の時間を十分に取れなかったことが一要因と考える。また、聴く視点を補助する学習プリント、掲示物等もその子どもにとっては機能していなかったことも考えられる。本時以外の授業においても、自分を支援してくれるもの（活用できるもの）が身の回りにあることを意識させたり、それらを活用する機会を増やしたりする必要がある。

○　活動の初めから、何をしてよいのか全く分からず立ち止まる子どもは見られなかった。自分自身で始めの一歩を踏み出す力は、この１年の研究のなかで付いたように思う。後は、そこからさらに学びを進めていく力と、その学びの質を高める力を付けていく必要がある。